

焼津体育館が新しくなります



完成イメージ（西側）

令和9年春
完成予定

開館から約 60 年にわたり利用されてきた焼津体育館は、建て替えにより新しく生まれ変わります。

新しい焼津体育館は、現在の機能を継承するとともに、市民の皆さんの意向を踏まえて新たな機能を備え、武道競技など多目的の利用を見据えた施設を目指します。安全安心な「スポーツ・交流」の拠点施設として、令和 9 年春に完成予定です。

問合せ スポーツ課 ☎626-9413

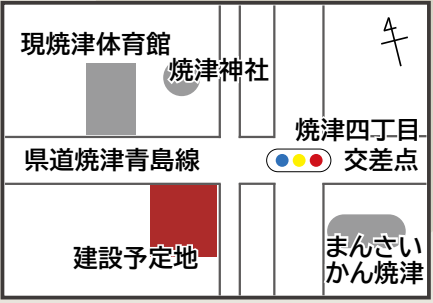


詳しくはこちら



完成イメージ（北側）

新焼津体育館の
設計コンセプト



【図】新焼津体育館の位置図

Check
武道場の新設

市内では、さまざまな武道が多くの市民により盛んに行われており、新しい焼津体育館が武道競技においても中心的な施設となるよう武道場を新設します。

誰もが使いやすく、気軽に訪れるスポーツ施設

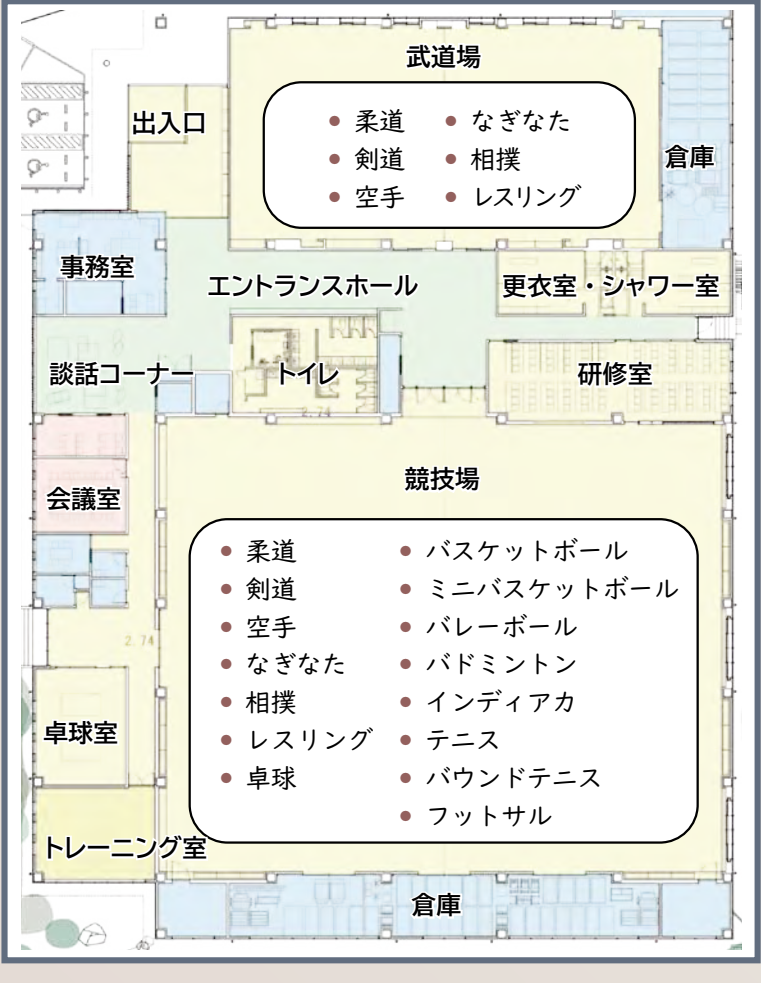
現在の焼津体育館の機能を継承しつつ、市の新たなスポーツ拠点・交流拠点となる施設とします。多目的利用に対応できる、使いやすく分かりやすい施設とします。

安全安心で利用しやすい、配置・動線計画

高齢者や障害者だけでなく、誰にとっても利用しやすいシンプルな動線とし、分かりやすい表示・案内板を設置するなど、バリアフリーに配慮します。

災害・防災機能の充実

発生の恐れがある大規模災害を踏まえ、防災拠点・避難拠点としての機能も備えた施設とします。



【図】新焼津体育館の平面図

のりき

特集開港60周年

私たちの暮らしを支える物流の玄関口

大井川港



私たちの暮らしを支える物流拠点として地域経済の発展に大きく貢献してきた大井川港は、今年で開港60年を迎えます。

今号では、大井川港のこれまでの歩みと今、これからをご紹介します。

問合せ 大井川港管理事務所 ☎622-1337



詳しくはこちら

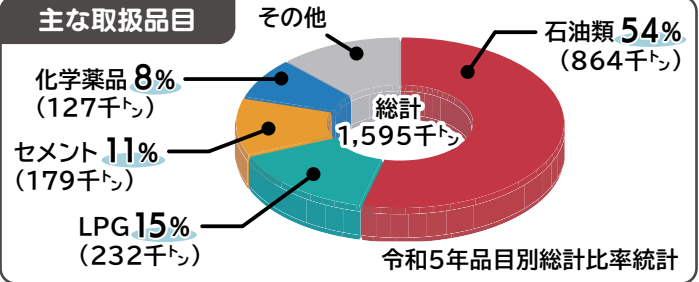


物流の玄関口としての大井川港

大井川港で取り扱われる貨物

物流港として大井川港を利用する船舶は主に、ばら積み貨物船やタンカー船です。一般的なばら積み貨物船は、10トトラック 160 台分もの貨物を一度に運ぶことができます。

主な品目は、石油類、LPG（液化石油ガス）、セメント、化学薬品、その他原材料などで、県中部地域の物流拠点として、地域経済の発展に貢献しています。



主な取扱品目

石油類 54% (864千ト)

LPG 15% (232千ト)

セメント 11% (179千ト)

化学薬品 8% (127千ト)

その他 10% (156千ト)

総計 1,595千ト

令和5年品目別総計比率統計



ばら積み貨物船

タンカー船

漁業の拠点としての大井川港

大井川港は、物流としての顔だけでなく、漁業の拠点としての顔も持っています。特に、桜エビやシラスの水揚げが有名で、桜エビは全国で唯一駿河湾だけで漁獲され、大井川港と由比漁港だけで水揚げされています。



桜エビ



大井川港漁港区エリア

にぎわい拠点としての大井川港

大井川港は、「大井川港朝市」や「踊夏祭」などのさまざまなイベントや大井川港漁業協同組合直営食堂「さくら」など、にぎわい拠点としても地域住民から親しまれています。



踊夏祭



「さくら」の二色釜揚げ丼

そして、これから ～大井川港の可能性～

大井川港は、東名高速道路・大井川焼津藤枝スマートインターチェンジや国道 150 号、富士山静岡空港などの主要な交通網に恵まれ、工業地帯や市街地などに近接しているなど、海・陸・空をつなぐ重要な物流拠点となっています。

船舶輸送は、一度に大量の荷物を運ぶことができ、環境負荷も小さいことから、近年大変注目されており、今後、大井川港が果たす役割はますます大きくなっていくことが予想されます。

これからも地域に愛され、地域に役立つ大井川港として発展していきます。



上空から見た大井川港

History

大井川港の歩み

1962年 7月 港湾法の港湾区域認可を受ける



計画段階の様子

1964年 3月 大井川の砂利を国土建設のため都市部に移送する港として開港



建設中の様子

1977年 4月 初めて外航船が入港

1999年 3月 現在の港湾会館が完成



開港当時の様子

2008年11月 合併により町営港から市営港に

2024年 7月 開港60周年を記念し、大型練習帆船「日本丸」が初寄港



港湾会館



日本丸